

地域力応援基金助成事業（チャレンジ助成・チャレンジプラス助成）について

地域力応援基金助成事業（チャレンジ助成・チャレンジプラス助成）について、区長に対し大田区区民協働推進会議から推薦のあった以下の事業を令和4年度助成事業とする。

1 チャレンジ助成

◆申請事業数 3 事業 ◆助成事業 2 事業（総額 226 万円）

	団体名 代表者	事業名 主な事業内容	交付額	評価のポイント
1	ふれあい子ども クラブ 野村 洋子	大森西地区の多様性ある 居場所「きょうもおいで」 プロジェクト 地域に住む高齢者や障が い者、子どもなど多様な 人が交流する居場所を提 供することで、人々の交 流を深め、支え合う地域 をつくる。	100 万円	高齢者、障がい者、子どもなど誰 でも参加できる居場所づくりは、 世代を超えた「地域共生」につな がる。また、人々の交流が深まる ことで、支え合う地域づくりが期 待できる。
2	NPO 法人スマイル かまた 渡辺 義太	パラスポーツをみんなで 楽しもう 障がい者への定期的なス ポーツの場の提供を通 じ、障がい者だけでなく 子どもから大人、高齢者 の地域での交流を図ると ともに、障がい者への理 解を深めてもらう。	126 万円	ノーマライゼーションの理念に かなった取組であり、地域での共 生社会づくりにつながる。また、 区民の健康増進や障がい者への 理解の深まりが期待できる。

2 チャレンジプラス助成

(1) テーマ1：「自転車活用推進事業」

平成29年に「自転車活用推進法」が施行され、区は従前から継続する自転車利用環境向上の取組（とめる・はしる・まもる）に自転車活用（たのしむ）の取組を加えた「大田区自転車等総合計画」を令和4年3月に策定予定である。今後、計画の新たな施策となる「健康」と「観光」の視点で、地域における自転車活用の促進につながる事業を募集する。

◆申請事業 なし

(2) テーマ2：「ICTリテラシー向上のための地域支援事業」

デジタル化の進展や新型コロナウイルスの感染拡大により、これまでの人が集まることを前提とした地域づくりが困難となり、区民活動のようにコミュニケーションを主体として築いてきた活動に多大な影響をもたらしている。情報格差の拡大を防ぐとともに、ポストコロナ時代を見据えた地域活動の継続のため、地域におけるICTリテラシー向上に向けた事業を募集する。

◆申請事業数 2 事業 ◆助成事業 1 事業（総額 193 万円）

	団体名 代表者	事業名 主な事業内容	交付額	評価のポイント
1	NPO 法人大森 コラボレーション 斎藤 十四男	地域と区民活動をつなぐ ICT スキルアッププロジ ェクト 自治会・町会やシニアク ラブ等地域組織に関わる 人や IT 機器に慣れてい ない高齢者一人ひとりの ICT スキルの向上を目指 す。また、区民活動団体 の ICT を活用した団体の 運営・活動を支援する。	193 万円	区民や地域の ICT スキルの向上 によって、デジタルデバイドの拡 大防止につながる。また、デジタ ル化が進む環境の変化に対応し、 区民の安全・安心を支えいきいき として暮らせる社会づくりへの 貢献も期待できる。

(3) テーマ 3 : 「子ども・若者のための居場所支援事業」

区は、「大田区子ども・若者計画」において、居場所を通じた子ども・若者に対する支援体制の強化を重点事業の一つとしている。概ね 15 歳～39 歳までの困難を有する子ども・若者を対象とした居場所支援を展開し、交流体験や地域参加を通じた社会的自立への支援を行う事業を募集する。

◆申請事業数 2 事業 ◆助成事業 1 事業（総額 211 万円）

	団体名 代表者	事業名 主な事業内容	交付額	評価のポイント
1	NPO 法人 YUME プラス 関口 清斗	ジェネラルサポート・ おおた 小学 1 年生から中学 3 年 生を対象に、安心できる 居場所の提供を行う。本 事業を通じて地域と子ど もをつなぐことで、地域 による子育て見守りネッ トワークを強化する。	211 万円	交流の促進や相談ができる場所 の提供は、子どもの自立する力を 育むとともに、地域による子育て の見守りのネットワーク強化に つながることが期待できる。